

研究成果 3,000 字程度 (別紙添付可)	2017 年 5 月に、「近代沖縄における国民統合と教育に関する歴史的研究」に関わる遺跡や資料等の調査を、石垣市立登野城小学校の奉安殿、マラリヤ慰謝事業による博物館（新川）、八重山博物館、石垣市立図書館で行った。石垣市立図書館では、喜舎場英勝氏と宮城信勇氏の寄贈した資料を調査し、資料目録作成のためノートに主要な資料名を記入した。喜舎場英勝氏の資料の中には、中頭郡内の教育法規集があった。竹富島の喜宝院では、方言札の現物と教育勅語謄本を安置した竹富小学校の奉安棚を調査した。奉安棚については、大東島の洞窟のなかの棚についての情報も得られた。また、マラリヤ慰謝事業による博物館（新川）に展示されていた教育勅語謄本も確認をした。 学校火災による御真影や教育勅語謄本の焼失の有無については、佐敷小学校の例が知られているが、泊小学校、金武小学校では火事にもかかわらず、焼失を免れていることが分かった。この問題は、奉安殿の鉄筋コンクリート化の問題とも関係しているが、宮崎県の公文書館にこの件に関する九州各県と沖縄県の報告が保管されていることも確認できた。さらに、御真影の輸送ルートに関する史料も確認できている。 以上、御真影や教育勅語謄本及び奉護体制に関する史料の発掘と収集は大分進んできているというのが、研究成果と言える。
--	--